

## 舞台芸術を通じて日本文化を発信しながら、子どもと地域の発展を企てる大いなる挑戦。

ニューヨークの舞台芸術のメッカともいえるカーネギーホールで、日本の子どもたちがミュージカル公演を行うという前代未聞のイベントが2010年5月に行われた。その目的はショービジネスとはまったく無縁なところにある。日本文化の発信に加え、子どもの健全育成と地域の発展も支援しようという大いなる挑戦だ。

舞台芸術を通して、日本文化発信の担い手となる若者を育成。

兵庫県にあるユースシアタージャパン(以下YTJ)は、単なる劇団ではない。舞台芸術を通して、若者を日本の文化を発信する担い手として育成すること。さらに、そこで培ったノウハウを地域の学校やコミュニティに提供して、社会貢献をすることを目的に運営されている。

ここで学ぶ生徒は全て英語で演劇を行う。登場人物になって使いこなすことで、英会話の習熟が非常に早くなる。ダンスや音楽などの情操教育はもちろんのこと、友だちと協力し合うことも学ぶ。プロの大人の指導者やスタッフと関わることで社会常識やマナーも身につく。

YTJの安宅昇さんは次のように語る。

「演劇は総合芸術なので、それを経験する中に実に多くの『学び』があるのです。身につけていく実感もありますから、学習するモチベーションも維持できます」

現在300人ほどの生徒が学んでいるが、定着率は非常に高いという。

地域の自治体や大学と協力して、英語劇を行うこともある。小学校の生徒たちから希望者を募り、夏休みの間に学習させて発表まで行おうというものだ。さらに日頃の指導の中で培ったノウハウを、教育関係者や大学に提供するため、演劇による英語教授法のワークショップを各地で開催している。他にも無償の留学アドバイスや、国際交流のための場づくりなど活動の範囲はかなり広い。



ジュリアード音楽院を見学する子どもたち

「世界を見れば、文化発信の担い手となる若者を育てるためのユースシアターはたくさんあります。しかし、日本にはありません。多くの支援を受けてようやくYTJができたのですが、その成果が今後のユースシアターの未来を左右するという認識を持っておりまして、少しでも多くの方にメリットや魅力を知っていただけるよう活動しています」と安宅さんは説明してくれた。

子どもたちが演じる狂言「附子」の音楽劇が、アメリカで聴衆を魅了した。

その活動をさらに広めるため、YTJは2010年5月5～7日の日程で渡米し、6日にはニューヨークのカーネギーホールにて念願の海外舞台公演を行った。参加したのはオーディションを通過した子どもたちである。

5月5日にはニューヨークを拠点に1000人以上の若者が活動するコーラスグループ Young People's Chorus of New York City (YPC) との交流会を実施



ジュリアード音楽院客員振付師監修のワークショップの様子



ブロードウェイミュージカルのオーディションやリハーサルにも使われるスタジオを借りた最終リハーサル

した。

「YPCのメンバーたちはアフリカ語の歌を含む大合唱を、YTJメンバーは、今回使用するミュージカル・ナンバーとバレエを披露しました。さらに、立食形式のパーティや折り紙などのプレゼント交換を通じて交流するなど、大変充実した時間を過ごしました」と安宅さん。非常にクオリティの高い国際交流ができたようだ。

また、メンバーたちは世界各国から最高峰の芸術家が集まる名門校、ジュリアード音楽院の見学に招かれ、同院のダンス科講師から、バレエとジャズダンスのワークショップを受けるという有意義な体験もできた。

5月6日、いよいよカーネギーホールでの公演である。YTJメンバーのメインの演目は、狂言の「附子(ぶす)」をモチーフにした音楽劇と、日本の文化発信をテーマとした歌と踊りのパフォーマンスだ。日本の伝統文化をア

担当者より



日本の国際交流の大きな一歩を踏み出すことができました。

ユースシアタージャパン  
ニューヨーク公演担当  
安宅 昇さん

念願のニューヨーク公演を無事に終えることができました。ニューヨークの聴衆から高い評価をいただき、アンコール公演などのご要望もありましたこと、本当に嬉しく光栄に感じております。AJOSCのご支援が、明日の大きな可能性に昇華したことは間違いありません。改めて心より感謝申し上げます。



YPC との交流会の様子

メリカの観客に伝えるために企画された演目である。もちろん全て英語だ。

「素晴らしいパフォーマンスにお礼を言いたい。ニューヨークの観客は、若い演じ手の頑張りに目を見張り、聞き入っていました。私自身も、その場にいられたことが素晴らしい経験になりました」という現地の観客の声からも、この公演が大成功を収めたことがうかがえる。

一方、参加した子どもたちからは

「カーネギーホールに立って舞台に出演することができて、とても感動しました。この経験を生かして、これからもがんばります」(15歳女子)という声が寄せられた。

こうした体験と感動が子どもたちに与える効果は無限だ。グローバルな視点で世界を見渡しながらも、日本の文化の良さを伝えてくれる国際文化人がここから数多く羽ばたくことに期待したい。